

第Ⅱ章 健やかな親子づくりの取り組み

◆概要

国では、平成13年度に「国民が安心して子どもを産み、ゆとりを持って健やかに育てるための家庭や地域の環境づくり」という目標を掲げ、少子化対策を目的として「健やか親子21」を計画しました。計画では、目標年度を平成26年度に設定しており、現在も計画期間中です。

今までの「健康さくら21」では、国が掲げた4つの課題（「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」、「妊娠出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」、「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」、「子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減」）をもとに、「妊娠・出産・周産期」、「健康管理」、「育児」、「思春期」の4項目に目標を分類し、佐倉市の実情にあわせて指標を設け、策定されていました。

今回の「健康さくら21」では、国の計画が現在も進行中であることを考慮し、引き続き現在の「健やかな親子づくりの取り組み」を大目標に掲げ、4項目の目標を用いて、計画を策定しました。

◆章の構成

各目標の最初に、“めざす姿”として、市民の皆様や組織に共有していただくイメージとなる標語を掲げ、そのような標語にした理由や背景を説明しています。

次に、“取り組んでいく課題”として、今までの「健康さくら21」の最終評価をふまえ、佐倉市と市民、地域が目標達成に向け取り組む課題を示しました。

次の項目として、課題を解消するための、市民の皆様に向けての取り組みの提案や、健康増進課や市役所関係課が取り組んでいることを述べています。

“コラム”には、難しい用語の解説や、マメ知識など、気軽に読めて役に立つ読み物を掲載しました。

最後に、佐倉市が目標の達成度を評価するための指標の一覧表をまとめています。なお、表中の現状の値は、平成23年度市民健康意識調査の結果に基づいています。

◆主な課題

平成23年度に行われた市民健康意識調査の結果から、母子保健における課題として、以下の2点が佐倉市の主な傾向として見られました。

- 育児への不安を抱える母親が多い。
- 思春期（中・高校生）の子の自己肯定感や自尊感情（自分を大切に思う気持ち）が低い。

概要で述べたように、母子保健の分野では、4項目に目標を分類し、計画を推進していきますが、特に上記2つの課題を重視し、解決に向けて取り組んでいきます。

Ⅱ－１

妊娠・出産・周産期

～充実した出産・育児の環境づくりの取り組み

めざす姿

心豊かに、安心して出産・育児ができる環境をつくろう！

趣旨

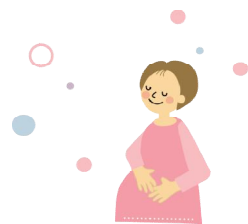
安心して出産を迎え心安らかに子育てするためには、妊娠中から妊娠・出産・育児に関する知識を得る機会を持ち、夫や家族等、周囲からの協力が得られる環境づくりが必要です。

そのためには、母親自身が自らの健康に目を向け、妊娠中からの健康づくりに取り組むことが、これから生まれてくる新しい命を含め、家族の健康づくりの土台となります。

しかしながら、就労している妊婦が増えていることから、妊娠中に母親になるための準備を整える時間が十分に持てないまま出産を迎え、不安を抱えながら育児にあたっている方が少なくありません。

佐倉市では、「健康さくら21」を策定した平成15年度に比べ、平成23年度の市民健康意識調査では、夫の育児協力を満足している母親の割合や、育児に参加する父親の割合が増加傾向にあり、育児に関する意識に変化がみられています。

今後も、出産・育児に関する知識の普及に努め、母親が周囲の育児協力に感謝するとともに、安心して心豊かに、子どもを産み育てられる地域づくりをより一層推進していきます。



取り組んでいく課題

◆市が取り組むこと

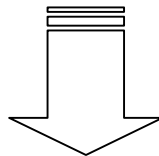
- 健やかな妊娠・出産を迎えるための支援を行います。
- 産前産後をサポートします。
- 支援を必要とする家族への対応を行います。
- 健やかで安全な出産のため、医療機関との連携を図ります。

◆市民が取り組むこと

- 妊娠・出産・育児について家族で積極的に学びます。
- 妊娠中の健康管理に気をつけます。
- 妊娠中・育児中の禁酒・禁煙に努めます。

◆地域や社会が取り組むこと

- 妊婦とその家庭を、職場や地域で応援します。
- 妊娠中・育児中の親子を孤立させないよう地域で声をかけあいます。



市民の皆様への提案 … “こんなことからやってみよう！”

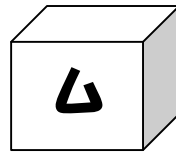
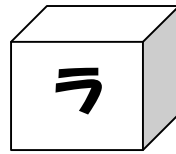
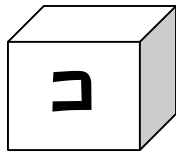
- マタニティクラスやパパママクラスに参加してみましょう。
- 妊娠中・育児中の禁酒・禁煙に家族みんなで取り組みましょう。
- 妊婦健康診査を定期的に受け、検査の結果に関心を持ち、健康管理に役立てましょう。
- 父親・家族は、育児や家事に積極的に参加しましょう。
- 困った時に相談できる保健センター等を探しておきましょう。

健康増進課では、こんなことに取り組みます！

- 健やかな妊娠・出産のための知識の普及啓発や、教育の場を提供します。
(マタニティクラス、パパママクラス)
- 妊娠・出産に関する相談を充実させます。
(妊娠届出時の面接、電話相談、妊婦訪問、不妊・不育に関する相談)
- 妊娠期の禁酒・禁煙のための知識の普及啓発を行います。
(妊娠届出時の面接、マタニティクラス、パパママクラス)
- 医療機関等と連携し、支援を要する家族にタイムリーな対応を行います。
(妊婦訪問、未熟児訪問、新生児訪問、こんにちは赤ちゃん訪問、母子の訪問指導)
- 妊婦一般健康診査の必要性の普及啓発を行います。
(妊娠届出時の面接、妊婦訪問、マタニティクラス)
- 妊婦一般健康診査の公費助成を行います。
(妊婦一般健康診査受診票の交付)

市役所関係課では、こんなことに取り組みます！

- 一時預り、特定保育を継続して実施します。(子育て支援課)
- 子育て総合情報冊子「佐倉っ子・子育てナビ」を作成し、配布します。
(子育て支援課)
- 公立保育園において、妊娠期の保護者対象の保育体験を実施します。
(子育て支援課)
- 公民館親子教室にて育児への理解の推進を図ります。
(教育委員会社会教育課)
- 中高生を対象とした早期の子育て理解講座を開催します。
(教育委員会社会教育課)
- 子育て中の方も、市の事業に参加しやすくなるよう、託児サービスを充実します。
(自治人権推進課)



マタニティマークって、なあに？

妊婦であることを示すマークのことです。キーホルダーなどの形で身につけることで、妊娠初期など外見からは妊婦かどうか判断しにくい女性が、周囲の人からの配慮をうけられるように考えられたものです。

◎マタニティマークを見かけたら…

妊婦さんに思いやりの気持ちをお願いします。

具体的には、

- ・妊婦さんの近くではたばこを控える
- ・電車、バス、病院などでは座席を譲る
- ・「なにかお手伝いしましょうか？」の優しい一言

などです。



知っておくと便利なマメ知識

◎母子健康手帳を活用しましょう！

妊娠届出を提出された方に、母子健康手帳を交付しています。

母子健康手帳は、妊娠中からお子様の誕生、乳幼児から思春期までの親と子の大事な成長記録になります。子どもの成長を喜び、家族と分かち合い、その様子を記録して20歳まで大切に使いましょう。

また、妊娠中は必ず携帯することで、いつでも妊娠の経過がわかるようになり、万が一の事故や災害時にも役立ちます。

妊娠中～出産～育児に関する記録だけでなく、育児に役立つ**たくさん**の情報が盛り込まれており、育児書のかわりとしてもお使いいただけます。ぜひ、一度じっくり目を通してみてください。

お子様が成人したら、思い出とともに母から子へ大切に引き継いでください。

Ⅱ－１ 妊娠・出産・周産期の現状と目標

心豊かに、安心して出産・育児ができる環境をつくろう！				
項目		平成15年度 策定時	現状	目標
夫の育児協力を満足している人の割合		71.3%	79.6%	増加
育児に参加する父親の割合		79.9%	83.0%	増加
新生児訪問・こんにちは赤ちゃん訪問を受けた人の割合		26.2%	87.3% (平成23年度事業実績)	94.0%
妊娠11週以下での妊娠届け出の割合		66.4%	87.6% (平成23年度事業実績)	95.0%
妊娠中の飲酒と喫煙の割合	妊娠中飲酒していた母親	21.6%	13.3%	0%
	妊娠中の母親の前で吸っていた家族	39.9%	21.4%	0%
	妊娠中に喫煙していた母親	6.1%	5.4%	0%
市または病院のマタニティクラスを受講した人の割合		80% (平成13年度)	83.6%	増加

Ⅱ－２

健康管理

～生活習慣の改善と事故予防対策

めざす姿

栄養・運動・事故防止に心がけて、

健やかに子どもを育てよう！

趣旨

子どもが健やかに育つためには、健康な生活習慣（栄養・運動・休養）を身につけると同時に、安心・安全な環境づくりが重要です。

佐倉市では、「健康さくら21」の中で「朝食を食べない幼児・小学生をなくす」という目標を掲げ、取り組んできました。

その結果、改善がみられましたが、その一方で、小学生では、一人で朝食を食べる割合が幼児に比べて高く、家族と共に食事をする「共食（きょうしょく）」が減る傾向にあります。

また、風呂場における事故防止等、幼児の事故予防対策を行っている家庭がいまだ少ないことや、夜10時以降に就寝する小学生が年齢の上昇に伴って大幅に増えていることなど、安全な環境づくりと生活習慣に関する問題があることが、平成23年度に行った市民健康意識調査から明らかになっています。

これら、食生活の充実や、子どもの事故防止対策、生活習慣の改善への取り組みを進めていくことで、健やかに子どもを育てることのできる地域・家庭環境を実現します。



取り組んでいく課題

◆市が取り組むこと

- 乳幼児期から食の体験を積み重ねていけるよう支援するとともに、適切な栄養をとるために必要な知識、技術について情報を発信します。
- 乳幼児突然死症候群予防等、事故防止対策について、普及啓発します。
- 子どもの健康管理の支援を行います。
- 正しい生活習慣を身につけるために必要な知識を広めます。

◆市民が取り組むこと

- 家族そろって食事をする機会を増やします。
- 幼児期から、正しい生活習慣を身につけます。
- 子どもの疾病や治療、健康診査についての理解を深め、小児医療機関を適切に利用するようにします。
- 予防接種の機会を逃さないようにします。
- 幼児期から外遊びを増やし、健康な運動習慣を意識的に身につけます。
- 事故防止の対策を実行します。

◆地域や社会が取り組むこと

- 食生活改善推進員とともに、自主サークル等の活動で勉強会や調理実習を行い、子どもの食についての知識向上に努めます。
- 地域開催のイベントでは、子どものスポーツの機会を増やします。
- 各種イベントに出前健康講座を活用し、地域での健康づくりの意識を高めます。
- 事故防止の対策を実行します。



市民の皆様への提案 … “こんなことからやってみよう！”

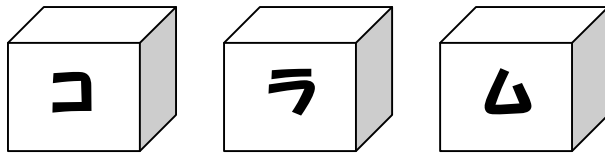
- 親子一緒に食事を作ったり準備したり、食卓づくりをしましょう。
- 親子で、生活リズムを意識して整えましょう。
- かかりつけの小児科医を持ちましょう。
- 「こうほう佐倉」、ホームページ、ケーブルテレビを活用し予防接種、健康診査等の健康情報を入手しましょう。
- 家庭内の事故予防対策を実践しましょう。
- 地域のスポーツ活動に、子どもと積極的に参加しましょう。

健康増進課では、こんなことに取り組みます！

- 子どもの食に関する情報を発信します。
(マタニティクラス、乳児相談・もぐもぐ教室、幼児健診、出前講座)
- 子どもの健康管理について学ぶ機会を提供します。
(母子健康手帳の配布、マタニティクラス、幼児健診、出前講座)
- 健診や相談体制の充実と強化、予防接種の勧奨を行います。
(妊婦・乳児一般健康診査、幼児健診、予防接種)
- 予防接種と健康管理に関する正しい知識を普及します。
(予防接種、マタニティクラス、乳児相談、幼児健診)
- 医療機関について情報を提供し、かかりつけ医制を推奨します。
(健康カレンダーの配布、HP への掲載、マタニティクラス)
- 家庭における事故予防に関する学習の機会と情報を提供します。
(乳児相談、もぐもぐ教室、幼児健診)

市役所関係課では、こんなことに取り組みます！

- 外遊びが安心してできるための環境整備を行います。
(公園緑地課)
- 安心して学び遊べる場所や機会についての情報提供と子育て総合情報冊子「佐倉っ子・子育てナビ」を作成し、配布します。
(子育て支援課)
- 学校開放の推進、各学校で実態に応じた日常的な体力づくりを行います。
(教育委員会指導課、教育委員会社会教育課)
- 早寝・早起き・朝ごはん運動の推進を図ります。
(教育委員会指導課)
- 保育園の給食レシピの紹介や育児相談を実施します。
(子育て支援課)



きょうしょく
「共食」ってどういう意味？

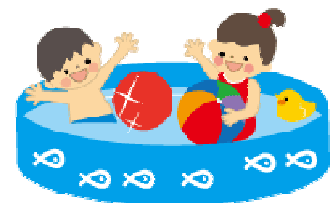
「共食」は、食を共にすることを意味します。家族が食卓を囲んで一緒に食事をとりながらコミュニケーションを図る「共食」には、精神面の安心感、生活や食事の質を向上させ、

- ・楽しく食事をとることができる。
- ・規則正しい時間に食べる習慣や食事のマナーが身につく。
- ・栄養バランスのよい食事をとることができる。

などのメリットがあります。

食卓は大事な食育の場です。家族そろって食を共にする「共食」の機会を増やしましょう。

知っておくと便利なマメ知識



◎水まわりの事故に注意！

乳幼児期の子どもは、数センチほどの水深でもおぼれることがあり、お湯の残った浴槽や、浅いプールでも事故の危険性があります。

風呂場には外鍵をかけること、子どもだけで、水まわりで遊ばせないよう家族みんなで注意することが、事故防止に役立ちます。

Ⅱ－２ 健康管理の現状と目標

栄養・運動・事故防止に心がけて、健やかに子どもを育てよう！				
項目		平成15年度 策定時	現状	目標
健康づくりのために栄養や食事について考えていない保護者の割合	幼児の保護者	10.0%	2.2%	0%
	小学生の保護者	7.4%	5.6%	0%
朝食を食べない幼児・小学生の割合	幼児	2.7%	0.4%	0%
	小学生	3.7%	0.6%	0%
おやつ目的を理解している幼児の保護者の割合		20.2%	20.4%	増加
夜10時までに就寝する幼児・小学生の割合	幼児	84.2%	93.5%	100%
	小学生	88.5%	94.1%	100%
肥満傾向にある子どもの割合	男子	—	3.3% (平成24年度食生活の調査)	減少
	女子	—	3.4% (平成24年度児童生徒の肥満度調査)	減少
外遊びをしない幼児・小学生の割合		35.2%	11.5%	減少
運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合	男子	—	81.1%	増加
	女子	—	67.8%	増加

項目		平成15年度 策定時	現状	目標
風呂場の事故防止のために、子どもがドアを開けられないように工夫している家庭の割合（1歳児）		23.5%	30.8%	増加
心肺蘇生法を実施できる保護者の割合	習った経験のある乳幼児の保護者	30.0%	59.6%	増加
	うち、心肺蘇生法を行う自信のある乳幼児の保護者	10.1%	10.9%	増加
チャイルドシート着用の割合		—	97.2%	100%
かかりつけの小児科医を持つ人の割合		86.3%	94.3%	100%
BCGを6か月までに受ける人の割合		—	98.4%	100%
麻疹予防接種を受ける人の割合	第1期	—	95.0% (平成23年度事業実績)	100%
	第2期	—	89.7% (平成23年度事業実績)	100%
1歳6か月児健診、3歳児健診に満足している保護者の割合		47.3%	64.4%	増加

Ⅱ－３

育児

～育児の負担・不安の軽減

めざす姿

負担・不安を減らして、みんなで育児を楽しもう！

趣旨

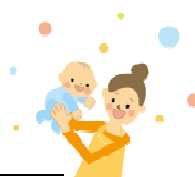
都市化や核家族化が進み、子育て経験の継承が難しくなったり、子育てを支える環境が大きく変化しています。また、共働き世帯の増加や働き方が変化しているにもかかわらず、依然として“育児は母親の役割”とする意識が残っているため、育児に対する母親の負担感が増えています。

さらに、育児情報が氾濫する中で、正しい情報、自分に合った情報を取捨選択することができずに、悩んでいる母親は少なくありません。

こうした状況のもと、佐倉市では、育児に自信が持てない保護者の割合が、４６％（全国値の約２倍）と高く、また、“近所に育児について話し合える友人がいる”とする保護者の割合が、「健康さくら２１」がスタートした時に比べ減少傾向にある（平成１５年度計画策定時８４．０％→平成２３年度市民健康意識調査時７５．５％）など、育児不安の軽減、母子の孤立防止が課題となっています。

このことを踏まえ、育児に関する正しい情報を伝達し、孤立しない育児のための交流の場を提供するなど、育児の不安感や負担感を軽減する取り組みを進めていきます。

併せて、地域における育児サークルなどの活動を支援することにより、“悩む育児”から“楽しむ育児”への意識の変容を目指します。



取り組んでいく課題

◆市が取り組むこと

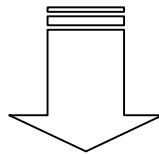
- 孤立しない育児のための知識の普及啓発や、交流の場を提供します。
- 育児に関する情報を積極的に収集し、配信します。
- 育児に関する地域活動への支援を行います。
- 虐待予防を推進します。

◆市民が取り組むこと

- 父親が積極的に育児に参加します。
- 育児に関する不安や悩みを一人で抱え込まないようにします。
- 地域で親子が孤立しないようにサポートします。

◆地域や社会が取り組むこと

- 親子が孤立しないように声をかけるなど、サポートをします。
- 世代間で交流できる機会づくりに努めます。



市民の皆様への提案 … “こんなことからやってみよう！”

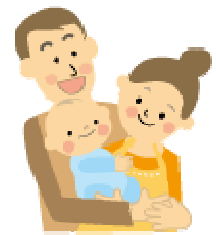
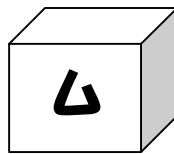
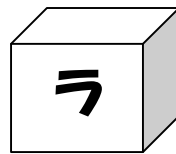
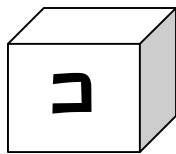
- 夫婦で育児について話し合う機会を持つように心がけましょう。
- 夫婦は互いの声に耳を傾け、ねぎらいの言葉をかけ合いましょう。
- ご近所にママ友を持ちましょう。
- 児童センターや保育園の園庭開放に顔を出してみましょう。
- ハッピーママスタイルなどの子育てサークルに参加してみましょう。
- 一人で悩まずに、まずは健康管理センター等の相談機関を利用してみましょう。

健康増進課では、こんなことに取り組みます！

- パパ・ママが参加できる事業を開催し、知識の普及啓発や、育児の仲間づくりを支援します。
(ハッピーママスタイル、ビーンズサークル、父親の育児参加の啓発)
- 体験型学習や相談を通じて、育児に関する不安の軽減を図ります。
(マタニティ・パパママクラス、4か月児乳児相談、もぐもぐ教室)
- 子育てサークルへの出前健康教育など、地域の子育ての活動を支援します。(健康教育・育児相談)
- 訪問や健診を通じて、虐待の早期発見と悪化の防止に努めます。
(妊産婦・新生児訪問、こんにちは赤ちゃん訪問、幼児健診)
- 発育・発達に関する相談に専門的に対応します。
(すくすく発達相談、ことばと発達の相談室、親子教室)

市役所関係課では、こんなことに取り組みます！

- 保育園に地域子育て支援センターを整備します。(子育て支援課)
- 親子が集える場の提供として施設を開放します。(子育て支援課)
- 一時預り、特定保育を実施します。(子育て支援課)
- 地域において、子育てを相互に援助するボランティア団体を応援します。(子育て支援課)
- 家庭教育学級、公民館親子教室などで育児への理解の推進を図ります。
(教育委員会社会教育課)
- 世代間交流(子どもと高齢者)の場を提供します。
(教育委員会社会教育課)
- 子育て総合情報冊子を作成し配布します。(子育て支援課)
- 家庭教育に関する情報の提供を行います。
(教育委員会社会教育課)
- 市民公益活動団体の支援を行います。(自治人権推進課)
- 児童虐待防止ネットワーク機能を強化・充実させます。(児童青少年課)
- 小中学校において虐待の早期発見・早期対応に努めます。
(教育委員会指導課)
- 就学時健診における入学説明会の場を活かし、家庭教育について学習する機会を提供します。(教育委員会社会教育課)



佐倉の自慢！

平成23年度に行った市民健康意識調査によると、夫の育児協力を満足しているママが増えています！（平成15年度計画策定時71.3%→平成23年度市民健康意識調査時79.6%）

パパ達がイケメンから育メンへ変身して、いっしょに育児を楽しんでいるようです。

これからも感謝の言葉を忘れずに、パパのがんばりを応援しましょう。

「ハッピーママスタイル」って、なあに？

健康管理センターで行っている20歳前に母親になった若いママたちの交流会です。

自分流のmama style を見つけて、happy な子育てができるよう、色々なイベントを通じ、同世代のママ達による育児情報の交換や、交流が行われています。

知っておくと便利なマメ知識



◎お薬

赤ちゃんに薬を飲ませるときに、スポイトを使うママが多いと思いますが、喉の奥の方に薬を落とすと、むせて戻してしまいます。

ホッペの内側あたりに、落とすようにしてみましょう。

◎夏のベビーカー

ベビーカーの子どもの高さで、舗装道路の上でじっとしてみてください。大人が普通に立っている高さよりもはるかに暑いことがわかります。

道路からの照り返しにより、ベビーカーに乗せられている赤ちゃんの体感温度は、親が思っている以上に上がっているのです。

夏にベビーカーで出かける時は、日陰でこまめに休む、水分をまめにとるなど、熱中症の予防対策が必要です。

Ⅱ－３ 育児の現状と目標

負担・不安を減らして、みんなで育児を楽しもう！			
項目	平成１５年度 策定時	現状	目標
子育てに自信が持てない保護者の割合	45.9%	46.7%	23.0%
子どもを虐待していると思う保護者の割合	13.5%	9.6%	0%
ゆったりと過ごせる時間が持てる保護者の割合	74.2%	81.5%	増加
子どもをかわいいと思える保護者の割合	96.1%	97.4%	100%
育児に参加する父親の割合	79.9%	83.0%	86.0%
夫の育児協力を満足している人の割合	71.3%	79.6%	増加
育児についての相談相手のいない保護者の割合	3.1%	1.8%	0.7%
近所に育児について話し合える友人のいる保護者の割合	84.0%	75.5%	84.0%

Ⅱ－４

思春期

～次世代の健全な育成

めざす姿

若者がいきいきとのびやかに育つ環境をつくろう！

趣旨

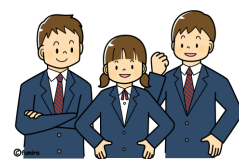
子どもから大人への過渡期である「思春期」は、子どもが、精神的・身体的に成長・発達していく重要な時期であるとともに、内面では大人と子どもの両面を持っている時期でもあります。また、保護者をはじめとして周囲の大人たちが、思春期の特性を十分理解したうえで接することが大切な時期です。

平成２３年度市民健康意識調査において、中・高校生に対して、自己肯定感に関する質問をしたところ、自分のことを好きかという質問に、「とても好き」、「まあまあ好き」と答えた割合は、男子４２．０％、女子２８．７％であり男女とも計画の策定時に比べて低下していることがわかりました。

自尊感情、自己肯定感の低い子どもたちは、自尊感情を保とうとして、自分より弱い立場の他者に対する『いじめ』という形に向かったり、自分を守るために、不登校やひきこもりなどによって、社会との接点をもたなくなることもあります。

また、自尊感情が高められないまま成人した場合、繰り返し問題を起こしてしまう可能性があります。

こうしたことを踏まえ、次世代を担う若者たちが、自分のよさに気付き、自信を持って、失敗や挫折を恐れず前向きに生き抜いていけるよう、いきいきと輝き、のびやかに育つ地域づくりを目指します。



取り組んでいく課題

◆市が取り組むこと

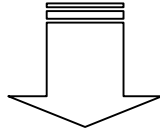
- 生命を尊重し、自分のところとからだを大切にする人を増やします。
- 保護者など大人向けに性に関する正しい知識の普及に努めます。
- 小・中学生を対象に薬物乱用の有害性について正しい知識を持ち、自ら正しい判断ができるよう普及啓発します。

◆市民が取り組むこと

- 命の大切さについて考えて、自分や周りの人を大切にします。
- 未成年者には、ぜったい酒をすすめません。
- 子どもの前では、タバコは吸いません。

◆地域や社会が取り組むこと

- 近隣・顔見知り同士、顔を合わせたらあいさつを交わします。
- 未成年者の飲酒、喫煙は法律で禁止されていることを社会全体で認識します。
- 未成年者に酒、タバコを販売しないことを徹底します。
- 地域や学区住民による、あいさつ運動、登下校時のパトロールを通して、子どもたちを見守る環境をつくれます。



市民の皆様への提案 … “こんなことからやってみよう！”

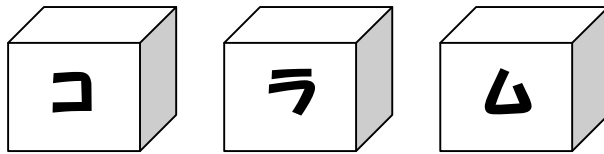
- 家族で普段から、子どもとの会話や食事を楽しみましょう。
- 大人は、地域の子どもの関心を持って見守り、声をかけるようにしましょう。
- 子どものやる気を育み、子ども自身の自己評価を高めるために、「ありがとう」「うれしい」などの気持ちを言葉で素直に伝えましょう。
- 未成年者は、飲酒、喫煙、シンナーや薬物には、絶対に手を出さない強い意思を持ち、誘われても毅然とした態度で断りましょう。

健康増進課では、こんなことに取り組みます！

- 健康増進課と教育委員会の連携を強化し、思春期保健対策を推進します。（養護教諭との定期連絡会、保健授業の協働実施）
- 養護教諭、教員と協力し、親子の結びつき、生命の大切さについて、普及啓発に努めます。（出前健康教育、健康教育）
- 子宮がんに関する正しい知識と予防接種の必要性について普及啓発します。
（出前健康教育、健康教育）
- 妊婦ジャケットや沐浴人形など、健康教育教材の活用を推進します。
（健康教育教材の貸与、健康教育）
- 思春期の健康問題に対処するための相談機関を広く周知します。
（広報、ホームページへの掲載）
- 飲酒、喫煙、薬物の健康への影響について、正しい知識を普及啓発します。
（出前健康教育、健康教育、広報、ホームページへの掲載）
- NPO法人、ボランティア団体、市民公益活動団体等、幅広く地域組織への普及啓発に取り組みます。（出前健康教育、健康教育）

市役所関係課では、こんなことに取り組みます！

- 中高生を対象とした早期の子育て理解講座を開催します。
（教育委員会社会教育課）
- 青少年に対し、薬物の危険性などに関する普及啓発活動を行い、薬物の乱用防止に努めます。
（児童青少年課、社会福祉課、教育委員会指導課）
- 自治会などの地域活動、親子行事への側面支援を行います。
（自治人権推進課）
- 地域で子どもたちの安全を見守る「アイアイプロジェクト活動」を推進します。（教育委員会学務課）
- 小中学校に講師を派遣し、児童生徒、保護者、地域住民と一緒に『人権』について考え、自分自身の行動に生かせるような「出前人権講座」を実施します。（自治人権推進課）



「自尊感情・自己肯定感」って、なあに？

自尊感情とは、自分自身をどれだけ、価値ある優れた存在としてとらえているのか、その感情や態度を意味します。「よいところも悪いところも含めて、自分が好き」という感情です。

自己肯定感とは、自分の考えや行為を肯定的にとらえることです。どちらも、子ども自身が、自分のよさに気づき、自信をもつことによって、新たなことや困難なことにも挑戦しようとする意欲を高めることにつながります。

知っておくと便利なマメ知識

◎「怒る」は自分のため、「叱る」は相手のため



「怒る」とは、相手が自分に悪い影響を与えたり、自分が指示した通りに動いてくれなかったりしたときに、自分が腹を立てたことを相手にぶつける行為です。

一方、「叱る」は、相手が自分を含めて誰かに悪い影響を与えたり、指示した通りに動いてくれなかったりしたときに、相手をより良くしようと注意やアドバイスを、あえて声を荒げたり、語気を強めたりして相手に伝える行為です。

怒られてばかりいると、自己肯定感が育ちにくいと言われています。

「お母さんにほめられた」「先生に認められた」という体験を多く積み重ねることが、自己肯定感を育むうえでとても大切になります。

周囲の大人たちは、「怒る」のではなく、「叱る」ことを心がけましょう。

Ⅱ－４ 思春期の目標と現状

若者がいきいきとのびやかに育つ環境をつくろう！				
項目		平成１５年度 策定時	現状	目標
シンナー・薬物使用を勧められたとき、断る自信のある中・高校生の割合		83.3%	79.9%	100%
シンナー・薬物使用の有害性について、知っている中・高校生の割合	習慣性 中学生男子	92.1%	96.3%	100%
	習慣性 中学生女子	97.5%	98.4%	100%
	習慣性 高校生男子	95.4%	94.4%	100%
	習慣性 高校生女子	98.3%	98.3%	100%
	脳や肝臓を 破壊 中学生男子	83.1%	83.9%	100%
	脳や肝臓を 破壊 中学生女子	90.6%	95.1%	100%
	脳や肝臓を 破壊 高校生男子	92.6%	85.9%	100%
	脳や肝臓を 破壊 高校生女子	94.3%	91.7%	100%
	幻覚・幻聴 中学生男子	84.1%	92.5%	100%
	幻覚・幻聴 中学生女子	88.1%	98.4%	100%
	幻覚・幻聴 高校生男子	95.4%	94.4%	100%
	幻覚・幻聴 高校生女子	96.0%	98.7%	100%

項目		平成15年度 策定時	現状	目標
避妊法を正確に知っている高 校生の割合	「知っている」 高校生男子	81.1%	65.0%	増加
	「知っている」 高校生女子	86.9%	82.2%	増加
性感染症を正確に知っている 高校生の割合	エイズ	92.0%	96.8%	増加
	クラミジア	50.3%	51.4%	増加
	梅毒	16.8%	18.4%	増加
	淋病	18.5%	22.1%	増加
	性器ヘルペス	14.2%	34.6%	増加
	尖形コンジ ローム	11.4%	13.8%	増加
性についてオープンに話せる家庭の割合		37.4%	32.9%	増加
子どもから性に関する悩みや 質問を受けたときにきちんと 答えられる保護者の割合	幼児保護者	33.9%	34.7%	増加
	小学生保護者	50.0%	44.2%	増加

項目		平成15年度 策定時	現状	目標
自己肯定感を持てる中・高校生の割合	男子	60.7%	42.0%	増加
	女子	43.3%	28.7%	増加
育児に関して肯定的な意見を持つ中・高校生の割合	男子	69.5%	64.2%	増加
	女子	78.8%	76.6%	増加
子育ては地域ぐるみで行うべきだと考える成人の割合		64.3%	85.2%	増加
近所の人と会ったときに挨拶をする中・高校生の割合		92.7%	93.0%	増加

